

シアバターで命守ろう

西アフリカのブルキナファソ産の植物油脂、シアバターを使った製品を販売した収益で浄水設備を贈り、現地の子どもの命と健康を守りたい——認定NPO法人「Future Code (フューチャーコード)」(神戸市)で活動する大学生たちが、同国産シアバターを日本の化粧品会社に原材料として橋渡しするプロジェクトを進めている。今秋にはハンドクリームが製品化される予定で、販売した収益を現地の支援に還元する。今月からシアバターを購入する資金をクラウドファンディング(CF)で募っている。【木田智佳子】

神戸市外大生らNPO活動



大類さんらが住民と共にトイレ建設などを進めている地域で、子どもたちとふれあうBYCSのメンバー＝ブルキナファソ・サボネ村で2017年12月(Future Code提供)

NPO法人は、医師 戸市外国語大の早川航(37)の大型単人さん(37) 洋さん(23)らにより学部に設立し、途上国や被災地の医療支援をしてきた。16年秋には神戸市外大の早川航(37) 洋さん(23)らにより学部「BYCS」(Business for Japan/Project social good)に挑戦することにした。

シアバターは西・中央アフリカに自生する木の実から採れる油脂で、体温でクリーム状になる。現地の女性たちが手作業で加工し、民間療法などに使われてきた。日本でも最近シアバターを含む保湿クリームなどの化粧品が人気だ。産地の一つであるア

化粧品会社へ橋渡しCFで資金募る

ルキナファソは衛生状態が悪く、乳幼児の死亡率が高いため、大類さんが住民の感染症治療などに力を入れてきた地。バイクスは、同国のNGOからシアバターを輸入してハンドクリームを製造販売しようとして昨秋、協力企業を探し始めた。大阪市の化粧品製造会社「日本コルマー」から協力を得られた。このほど原料の成分検査が済み、試作を重ねている。近く本格的な製造開発が始まる。

今秋以降、シアバター入りハンドクリーム(30ミリリットル1000円を予定)5000個をネットや協力店舗などで販売。収益の一部は、現地での浄水設備の購入・維持やシアバター作りに従事する女性たち



ハンドクリームの製品化で循環型の支援に取り組む(右から)BYCSの早川航洋さん、小野智博さん、Future Codeの大類隼人さん。小野さんが持っているのがブルキナファソ産のシアバター＝神戸市中央区で

この雇用創出などに活用し、乳幼児の死亡率低下や暮らしの改善につなげる。昨年11月、大類さんらとブルキナファソを訪れたメンバーの小野智博さん(19)は「僕らとなら変わらない子どもたちの笑顔が印象的だった。浅い井戸の泥水が飲み水であるような現状を変えなければと強く思った」と話す。

バイクスは5月8日までクラウドファンディング(<https://re-advfor.jp/project/social-good>)で資金協力を募っている。目標は300万円で、シアバターの輸入、製品化に使われる。

西アフリカに収益で浄水設備